

シーカヤックsk548tpLver6(三分割型) レーザーカット製作キット

組み立て説明書



カヌー製作友の会

販売企画 設計
カヌー製作友の会
代表 井瀬敦司
和歌山県田辺市文理2-13-1
問い合わせ
Email: inose@a.email.ne.jp

製作の工程

- 1 部品の切り離しと分類 → 2 船体板の接合 → 3 キール・前後ステムの組み立て →
- 4 接合部隔壁の組み立て → 5 後部船体の組み立て → 6 前部船体の組み立て →
- 7 中部船体の組み立て → 8 デッキの組み立て → 9 内部塗装 →
- 10 デッキの取り付け → 11 コーミング積層 → 12 パッチン金具 →
- 13 ハッチ組み立て → 14 フットブレイス組み立て → 15 外部塗装 →
- 16 艀装 → 17 進水

工具類

金づち のこぎり クランプ
+ドライバー 木工やすり
塗装道具 水性塗料

キット内容

レーザーカット済みベニア板 (600×440×4 39枚)
アルミ金具 ステンレスビスナット パッチン金具
接着剤 ファイバーテープ PPバンド 留め具

1 部品の切り離し

- ・ 切り離す前に、部品番号を裏面に書いておく。番号の種類ごとに分類して保管しておく。

<ポイント>

- ・ 部品は、表から裏に向かって押し出してはずし、穴の部分は逆に裏から表に押し出すようにして はずすことにより、部材が損傷しにくい
- ・ 小さな部座は、ビニル袋などに入れておくとよい。
- ・ 前部:F 中部:M 後部:R 隔壁の+-の数値は最大幅 $x=0$ からの隔壁位置を表す。
(R-80 は、後部Rの部材で、後方に80cmのところ $x=-80$ の隔壁という意味です)



2 船体板の接合

- ・ 船体板のカットされた切り口の部分に接着剤をつけ、番号順に接合する。

<ポイント>

平らなところで部材を接着した後、上に端材をおき、金づちなどで軽くたたいて段差がないようにする。

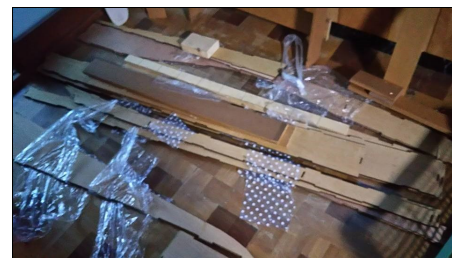
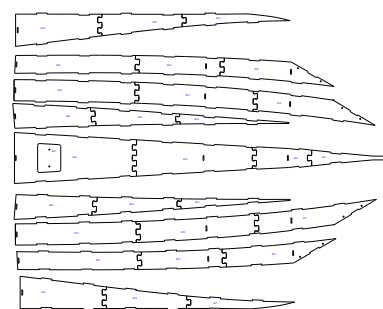
左右の部材を重ねてずれがないことを確認する

重ねる時、接着剤でひっつかないようにするため、間にビニルシートをはさんでおく。

はみ出した接着剤は濡れ雑巾でとっておく。

組み立て図を参照に、部材の裏表、天地、前後を確認して接合する。特にCの部材に注意する。

接着剤が固まるまで、床などの平らなところに保管する。

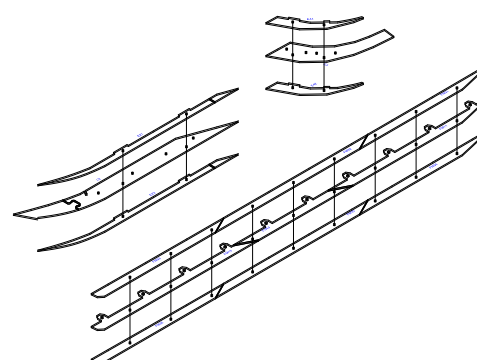


3 キール、前後のステム材の組み立て

- ・ キールは直進性を高めるだけでなく、底部の強度補強を兼ねている。3枚積層して、穴に竹箸をさし接着する。突き出した竹箸はのこぎりで切断してやすりで平らに仕上げしておく。組みあがったものは、少し湾曲している。
- ・ ステム材は、衝突時の保護の目的の他に、組み立てる時ずれが起きないように組み立て時のガイドの役目をする。前後とも3枚積層して竹箸をさし接着する。E2,E3の下部を削って薄くしておく。

<ポイント>

キールは、接着後、クランプなどで加圧して固定しておく。接着剤は高まると膨張する性質を持っている。



4 接合板の組み立て

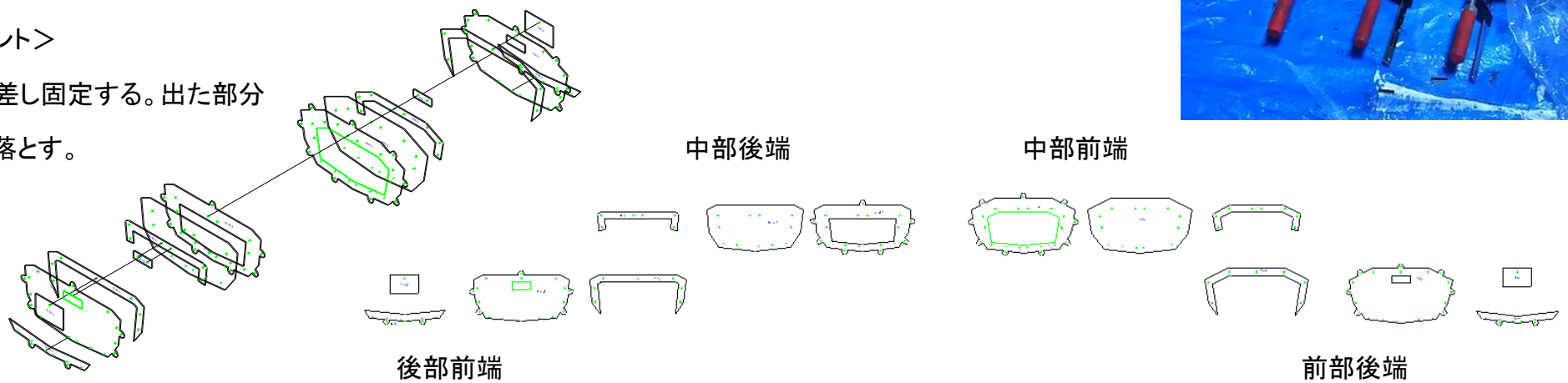
・船体の外側に板の表面がくるように注意して、図のように組み立て、竹箸で位置がずれないように接着する。

<ポイント>

F90(前部の後端の隔壁)とM90(中部の前端の隔壁)を組み立て、お互いに接着しないようにビニルシートをはさんでからクランプで加圧して接着する。同様に、M-80とR-80もクランプで加圧して接着する。

<ポイント>

竹箸を差し固定する。出た部分は切り落とす。



接着剤が固まってから、接合板に、アルミのツメをビスで固定する。

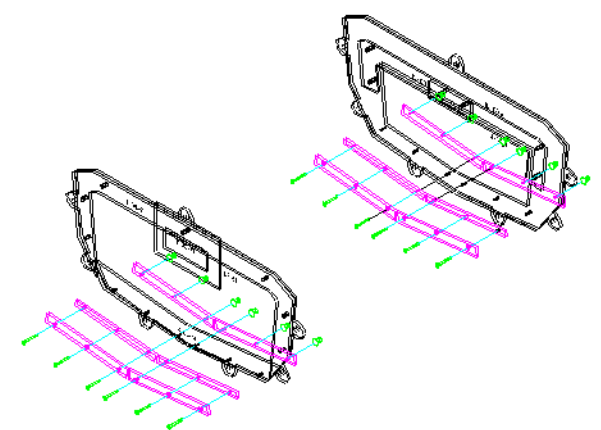
<ポイント>

アルミ板にも接着剤をつけておく。ただし、溝についた接着剤はとっておく。

アルミのツメは10×3mm厚をはさむようにして15×2mm厚を取り付け、裏面でワッシャーとナット。

15mm板は皿ネジが収まるように裏表があるので注意する。

アルミツメを引っかけたあと、凸部を差し込み固定できるか確認しておく。



5 後部船体の組み立て

R-80の隔壁に接着剤をつけ、ER、DR、CRの船体板を取り付け、ほぞに割りばしを差し固定する。

R-120、R-180の隔壁も同様に接着する。ただし、船体板どおしは接着剤を入れない。

図のように、横棒をわたし、船体の下から輪にしたPPバンドをかけ締めると、船体板が密着する。

さらに、後端のステム材を取り付け 竹橋を差し接着する。

船体板の接合部分にファイバーテープを貼り付け、その上から接着剤を塗るようして塗布する。

<ポイント>

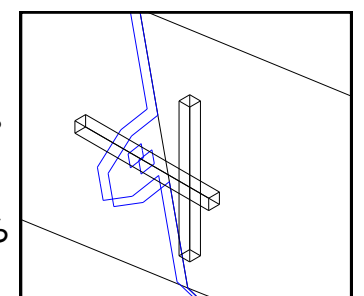
PPバンドでしっかりと締めて、密着させることが船体の強度と正確な製作につながる。

ねじれやゆがみがないことを確認する。

ほぞの穴に短く切った割りばしをさし、さらに、割りばしの下にもう一本の割りばしを押し込むことにより、ほぞが密着する。

小さいほぞの穴には、竹串をさし固定しておく。

接着剤「床職人」は固まると体積を増します。そのためしっかりと固定しておく必要があります。ファイバーテープの網目からはみ出してくるので、半がわきのとき、上からこすってならしておく。



6 前部船体の組み立て

同様に前部船体を組み立てます。前部ステム材には、隔壁F180が入ります。

7 中部船体の組み立て

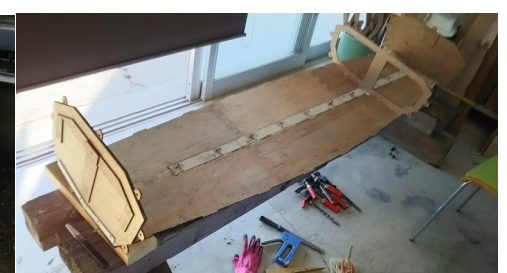
EMの底板にキールを接着し、固定部材で止めておく。

-40の隔壁を固定し、さらに、サイドパネルと隔壁0、-20を組み立てる。

<ポイント>

サイドパネルは、後方に向かって高くなるようになっている。

FM41、FM42は前方(X=0) FM51、FM52は後方(X=-20)の位置である。



8 デッキ板の組み立て

デッキ板を接合し、内部側の裏面にファイバーテープと接着剤で接合する。

9 内部塗装

デッキ板を取り付ける前に、内部塗装を行う。

このとき、デッキの裏側も塗装しておく。



10 デッキの取り付け

前部、中部、後部のデッキを接着する。

接着剤が固まるまで、PPバンドで締め固定しておく。

デッキ板は側板から少し出るようになっているので、はみ出した部分をかんななどで削る。

また、隔壁のほぞと接合部の出っ張りも削ってなめらかにする。

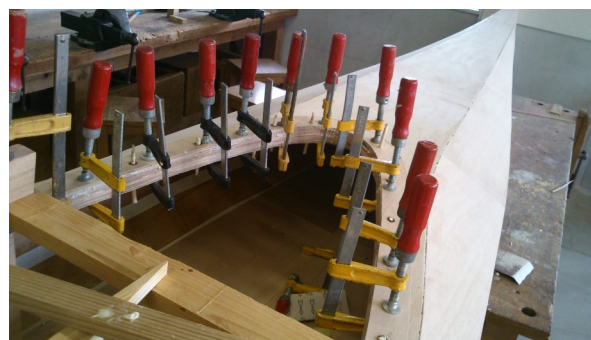


11 コーミングの組み立て

コーミングのつなぎ目は2種類ある。、デッキには最初、G1G2から接着する、その上に、継ぎ目が重ならないように4層に積層していく。さらに5層6層に幅の広い2種を積層する。

<ポイント>

丸箸をさしずれないように接着していく。クランプで止め、加圧しておく。



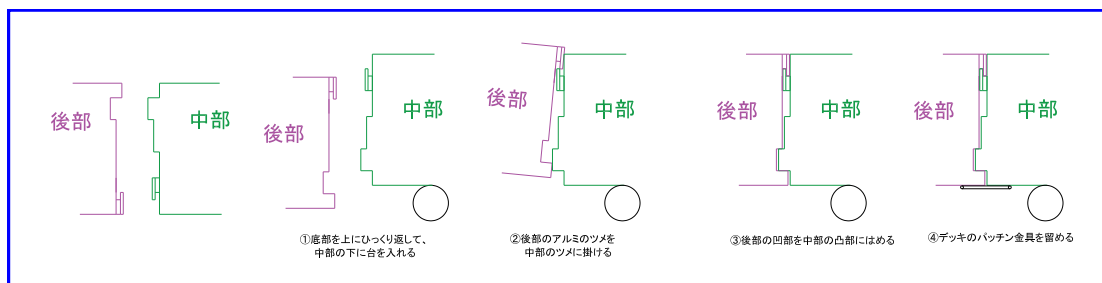
12 固定金具の取り付け

パッチン金具をビスとナットで固定する。裏から、当て板を入れておく。

アルミのツメをひっかけ、パッチン金具で止める。

<ポイント>

ひっくり返して中部を台に乗せる。ツメが奥まで入ると、カタツとはまる。



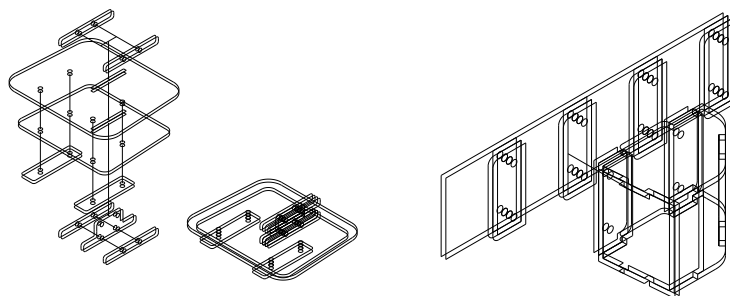
13 ハッチ、フットブレイスの組み立て

ハッチは2本のツメとスライドツメで固定する。

フットブレイスは、3段階の調整が可能で、体に合

わせてベース板を船体板Cの適当なところに接着する。

足かけは乗る人に合わせて脱着する。



14 外部の仕上げ塗装

接合部に、外からもファイバーテープをはり、接着剤を塗布する。

外側ファイバーテープは、なくても十分強度は保たれているので外観を重視するなら不要である。ただし、接合部のくぼみに、接着剤を充填してコーキングしておく必要がある。

塗装は、水性アクリル塗料を最低2回は塗る。さらにクリアー塗装を行えば光沢が増す。

15 艀装

前後に持ち手をつける。

船体に穴をあけ水道パイプを通し、パイプの穴にロープを通すのもひとつの方法である。

シートはバスマットや発泡スチロールなどで作成する。



16 進水

水漏れ確認、転覆限界、リーン(傾ける)して曲がること、前後バランス、などを確認しましょう。

カヌー製作友の会の掲示板に進水の様子を伝えていただくと次の製作者のヒントや励みになります。ご協力をよろしくお願いいたします。

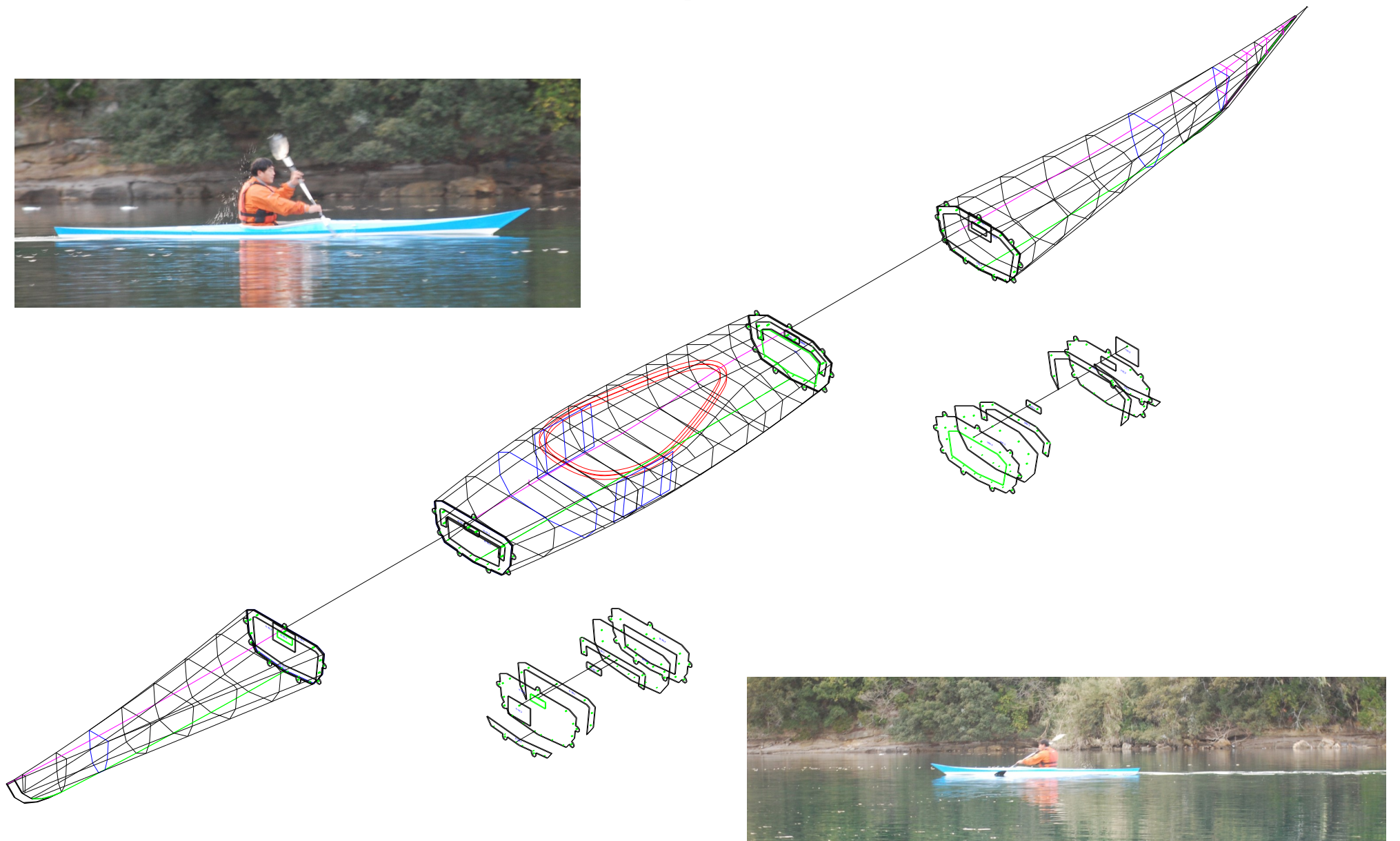
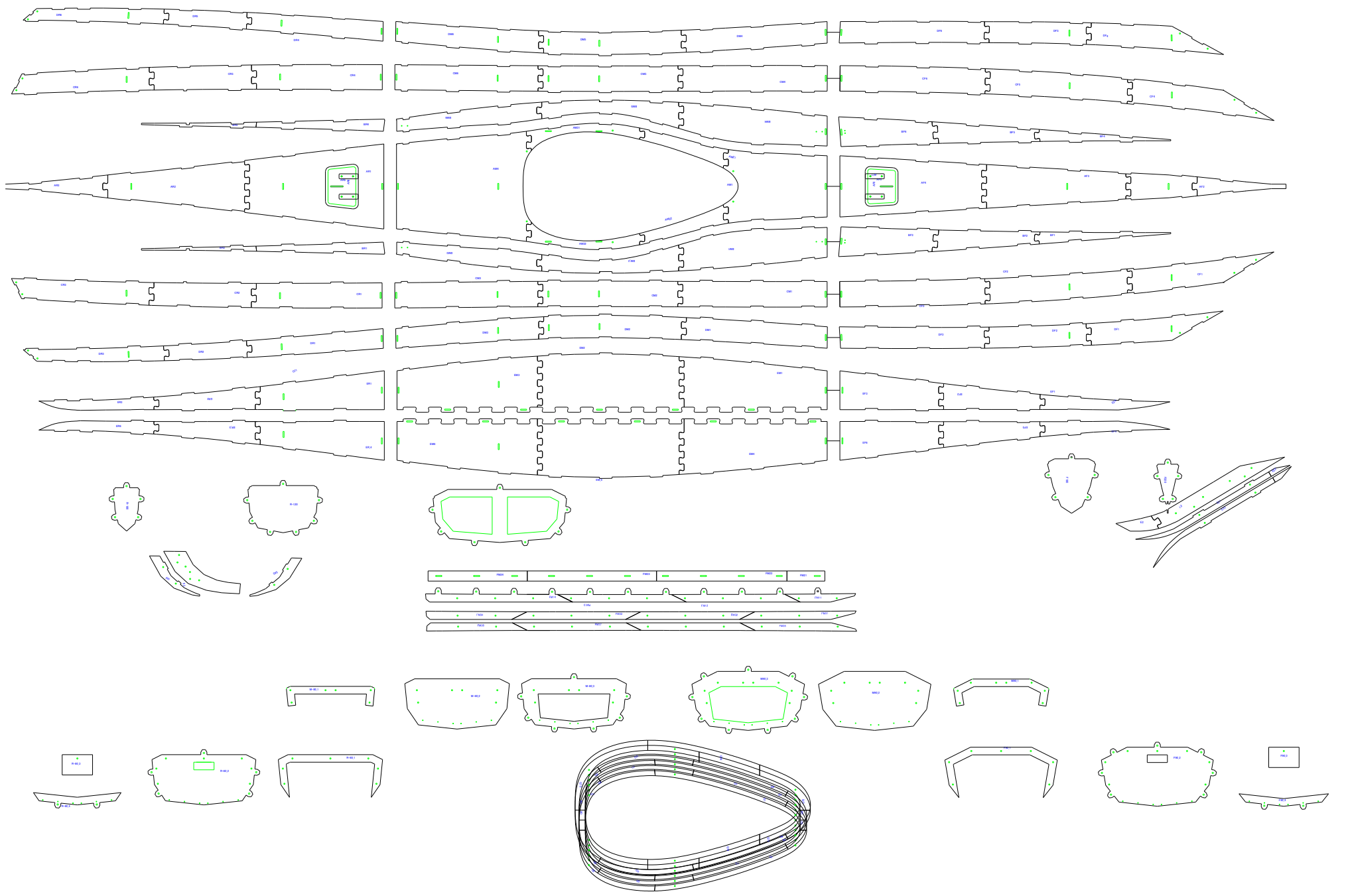
安全への配慮について

自然の中への漕ぎ出しは、十分な安全への配慮のうえ行ってください。

製作物の使用については、個人の判断と責任のもと使用してください。

ライフジャケットは必ずつけてください。

組み立てたまま、車のカートップに積載しての搬送は、接合部に大きな負荷がかかりますので避けてください。



販売企画 設計 : カヌー製作友の会
 代表 井瀬敦司 和歌山県田辺市文里2-13-1
 問い合わせ Email: inose@a.email.ne.jp

EARTH MATE 製作サポート ツアーガイド; EARTH MATE
 和歌山県田辺市新庄町北内之浦3143-8
 問い合わせ Email: info@earthmate.jp